

2011.11  
桑名市議会議員  
愛敬

桑名市メールマガジン「くらしの安全情報 11月号」

避難情報十分に伝わらず

9月の台風15号にともなう大雨で、庄内川の水位が上がるなど災害の危険が高まったため、名古屋市は、あわせて109万人を対象に避難指示や勧告を出しました。これらの情報が住民にどのように伝わったのか、NHKは、避難勧告が出された守山区下志段味地区で聞き取り調査を行いました。それによりますと避難勧告が出た事を知らせる「同報無線」のサイレンが聞こえたと答えた人は、一人もいませんでした。市や消防団の広報車が呼びかける内容を聞き取れた人は、約30%で残りの70%は、広報車に気がつかなかったか、内容が聞き取れなかったと答えました。

どのように避難勧告を知ったかについては、名古屋市が導入しているメールの一斉配信サービス「エリアメール」が27%で最も多く、広報車が21%、友人や親類からの連絡が18%などでした。しかし、最も多かったエリアメールでも、受け取った人の半数以上は、対象地域の表示が「守山区の一部」となっていたため、自分が対象だと思わなかったと答えました。

この結果について名古屋市消防局の防災室長は「市民にできるだけ危険が伝わるよう発表したが、事前の説明が足りなかった。いかにきめ細かく、自分のこととしてわかる情報を出していくのか、早急に検討したい」と話しています。